



海外・現場最前線からのお便り

海外で活躍する林野庁職員の内情をシリーズで報告します

# ベトナムでの森林・林業分野の JICAの取り組み



国際協力機構(JICA)  
ベトナム・持続的自然資源管理強化  
プロジェクトフェーズ2長期派遣専門家  
**矢野 宣和**

私の任国であるベトナムでは、1943年に43%であった森林率が戦争、戦後復興資材の供給のための過剰伐採、農地への転換等により1990年には27%まで低下しました。しかし、政府や国際社会の支援による植林等により、2020年には42%に回復しました。人工林面積の増加が森林率の上昇に貢献する一方で、貴重な生態系を有する天然林は依然減少傾向にあります。2014年には天然林の伐採は原則禁止され、量から質への転換が求められています。

2021年の木材等の林産物輸出入額は推定142億ドル(日本の約50倍)で、うち100億ドルは



写真2 年次総会でプロジェクトの進捗状況を説明



写真1 地方政府とのプロジェクト運営委員会



写真5 ハノイ近郊の滝



写真4 苗畑造成予定地を視察



写真3 マツ人工林の生育状況を視察

家具などの木材製品と、木材産業は国の経済成長に大きく貢献しています。天然林を利用できず、短期を繰り返す人工林資源しかないベトナムにおいて、家具の輸出が盛んなのは、小径木の加工技術が高いことと、原木の多くを外国から輸入しているためです。しかしながら、安価な輸入原木には、違法伐採木材が含まれているとの指摘もあり、(ベトナムも輸入原木の合法性確認に取り組んでいるもの) 国際市場が求める合法性の確認された木材製品を安定して輸出し続けるためには、原木を輸入材に依存せず国内の森林資源をもっと利用することが求められています。

このような背景からベトナム政府の要請を受け、国際協力機構(JICA)は、森林の質的管理を推進するため、「持続的自然資源管理強化プロジェクトフェーズ2(SNRM2)」を立ち上げました。SNRM2の活動内容は、中央政府に対する森林政策等の指導と、地方4省への持続的森林管理への支援から構成されています。私は地方政府への支援を行う長期専門家として2021年6月から派遣されており、当地の森林計画制度に

明るいベトナム人コンサルタントとともに、カウンタートパートである中央及び地方政府の担当者との会議(写真1、2)の開催調整、持続的な森林計画の策定に必要な調査(写真3、4)の進捗管理などを行っています。定期的にプロジェクトニュースも配信していますので、こちらも是非ご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/058/index.html>



コロナウイルス感染拡大の影響により、着任した初めの1か月間はホテルでの隔離を強いられ、その後2か月間はハノイ市がロックダウンし、至る所に検問が設けられ、外出することが悪のような本当に肩身の狭い思いをしました。5か月間単身で過ごしていました。11月からは渡航した家族と一緒に暮らしています。ハノイ市は日本食のスーパーやレストラン、

外国人向けの病院も多く、配車アプリを使えばタクシーで気軽に移動できます。何よりも治安が良いのでとても住みやすい街です(写真5)。  
住居から職場までは自転車で片道15分かけて通勤しています(写真6)。雨の日は(ポンチョ姿で)渋滞する車を横目に走り抜けることができます。残りの任期は短いので、ダイナミックな東南アジアの熱気、活気や生ライチを少しでも体に蓄えて、公私ともにベトナムでしか得られない貴重な経験を楽しみたいと思います。



写真6 愛車のマウンテンバイク